

AFACT 運営会議報告

2013年5月9日～5月10日

ホイアン（ベトナム）

報告者：SIPS 事務局長 菅又 久直

I. 会議日程：

- 5月8日（水） 東京発 ホーチミン、ダナン経由ホイアン着
- 5月9日（木） AFACT 技術手法委員会（TMC）会議
- 5月10日（金） AFACT 運営委員会（StC）会議
- 5月11日（土） ホイアン発 ダナン、ホーチミン経由
- 5月12日（日） 東京着

II. 会議参加の目的：

アジア各国で協力して、効率的で相互運用性のあるグローバルサプライチェーンのための情報基盤を構築することを目指して、アジア各国の代表と技術的・手続的課題を審議するためにAFACT会議（運営委員会および技術・手法委員会）に参加した。

- ◇ AFACT（アジア太平洋貿易手続簡易化と電子ビジネス促進センター）：国連 CEFACT が開発した貿易円滑化と電子ビジネスに関する国際標準等の普及を図るために、国連 CEFACT アジア地区ラポーターと連携して活動する非営利の団体で、現在アジアの 19 カ国・経済圏が参加している。

なお、今回の会議は、ベトナム政府の後援の下にベトナムデータ通信会社（VDC: Vietnam Datacommunication Company）が会議を運営した。

III. AFACT 会議総括：

AFACT は、1 年毎に異なるメンバー国が議長国となり、運営委員会と総会の 2 回のイベントを主催する。2013 年はベトナムが議長国（2010 年：日本、2011 年：台湾、2012 年：イラン）で、今回のホイアンにおける運営委員会とホーチミンでの総会（10 月末）が予定されている。

- ◇ ホイアン：ダナンから 30km 南にある、世界遺産にも登録されている古い港町。今回の会議はダナン会議と紹介されていたが、正確な開催場所としてはホイアンである。

今回の会議には、日本（小生を含め、4名）、韓国、台湾、タイ、イラン、ベトナム、インドの7カ国、45名が参加した。

小生（SIPS 事務局長：菅又久直）は、技術手法委員会（TMC）の委員長の立場で、運営委員会（StC）および TMC 会議に参加した。

IV. AFACT 技術手法 (TMC) 委員会会議：

TMC 委員会には、3カ国（台湾、日本、韓国、タイ）から4名が参加し、国連 CEFACT 技術動向、アジア地域 CCL（Core Component Library）利用促進、および SOA（Service Oriented Architecture）相互運用フレームワークにつき審議を行った。

（1）国連 CEFACT 技術動向

本年4月の国連 CEFACT フォーラムにて議論になった技術テーマにつき、小生が説明を行った。カバーしたテーマは次の通り。

- ① 「ビジネス文書ヘッダー」：技術仕様開発担当者（リーダー：日本、エディター：ノルウェイ）の作業継続が困難となり、引き継げる人材が確保できないため、中断状態となっている。このため、異なるメッセージング・サービス間の情報伝達の標準化が遅れる恐れがでてきた。
- ② 「コア構成要素技術仕様（CCTS）／XML スキーマ設計規則（NDR）V3.0 の実証」：欧州の建設グループおよび GS1 にて、CCTS/NDR V3.0 に基づく実証が行われた。それにより、次の利便性が確認された。
 - ・ パッケージ機能の有効性。
 - ・ コア構成要素（CC）およびビジネス情報項目（BIE）の特性定義（Property）の整合化。
 - ・ BIE の不要な修飾子の削減による辞書引名（DEN: Dictionary Entry Name）の短縮、および XML スキーマ・タグ名の短縮。

今後、CCTS/NDR V3.0 に基づく国連ライブラリー（CCL および XML スキーマ）の移行・開発・保守の手順について整備される。なお、CCTS/NDR V3.0 に基づくライブラリー整備コンセプトは、SIPS ビジネスインフラガイドブック V2.0 の業界横断データ辞書フレームワークに適用されており、AFACT にも提案中である。

- ③ 「国際貿易における EDI システムの相互運用性」：当件は、国連 CEFACT 新勧告としてのプロジェクトとして検討が始まっている。4月の国連 CEFACT フォーラムにおける審議の結果、次の2つのプロジェクトに分割して進めることとなった。
 - ・ EDI システム間の相互運用性
 - ・ 貿易における信頼性サービス間の相互運用性

当プロジェクトは、AFACT にて韓国が推進しているシャープ・メール（認証付アドレスによる高信頼性メール）のルール基盤となりえる。

(2) アジア地域 CCL (Core Component Library) 利用促進

小生より、SIPS のビジネスインフラガイドブック V2.0 を紹介し、その情報基盤である業界横断データ辞書 (CIDL: Cross Industry Data Library) フレームワークの説明 (図-1) を行い、CIDL フレームワークに基づくアジアの情報基盤整備促進につき提案を行った。

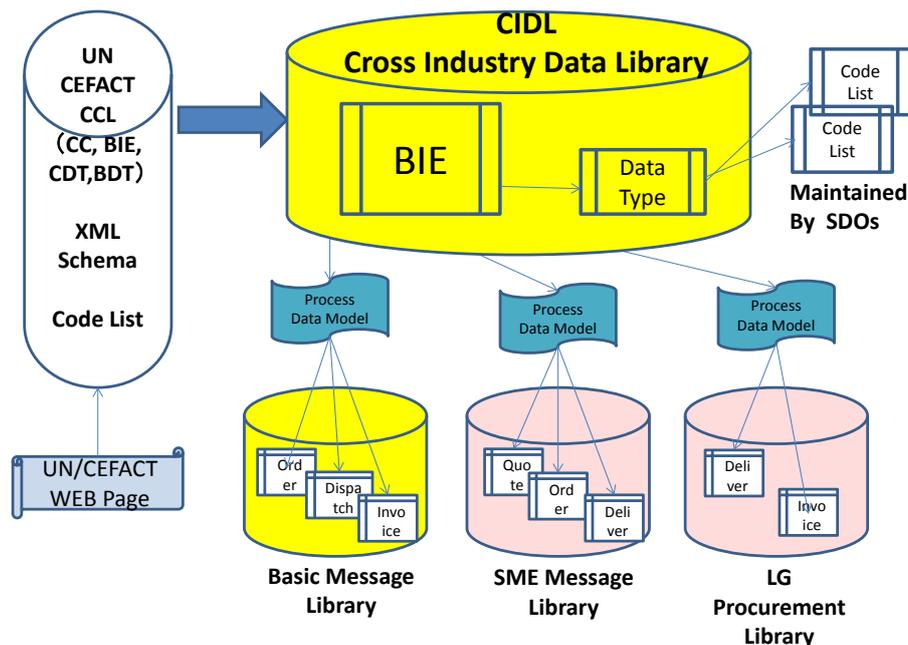


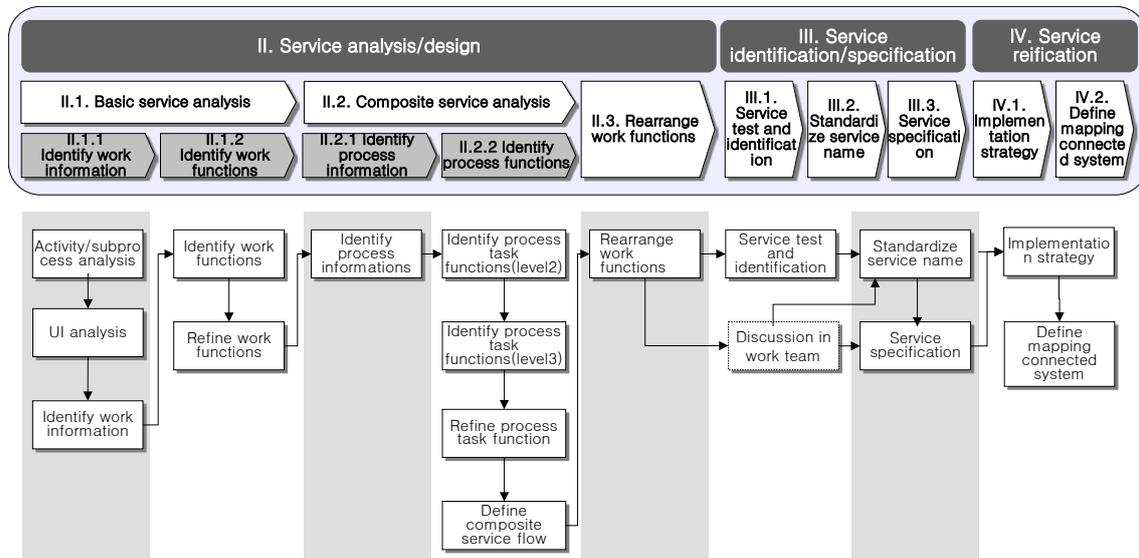
図-1 CIDL フレームワークの概念

アジア地域の情報基盤 (CIDL とメッセージ辞書) を促進するため、次の活動計画を合意した。

- ✧ 日本 (SIPS) はビジネスインフラガイドブックの英語版を準備する (期限: 2013 年 9 月)。
- ✧ AFACT TMC メンバーおよび SiC メンバーは、英語版ビジネスインフラガイドブックを評価し、TMC 議長 (日本: 菅又) に意見を提出する (期限: 2013 年 11 月)。
- ✧ 日本 (SIPS) はビジネスインフラガイドブックに基づくアジア地域における情報基盤 (CIDL とメッセージ辞書) 整備計画を提案する (期限: 2013 年 11 月)。

(3) SOA (Service Oriented Architecture) 相互運用フレームワーク

韓国の Youngkon Lee 氏 (Korea Polythec Univercity) より、SOA 設計ガイドラインとしてサービス・モデリング手法 (A Service Modeling Methodology for SOA) が紹介され (図-2)、AFACT の標準ガイドラインとして採用することが提案された。



図一 2 SOA サービス・モデリングプロセス

シングルウィンドウの SOA 適用を促進するため、次の活動計画を合意した。

- ◇ AFACT TMC メンバーおよび StC メンバーは、提案の SOA サービス・モデリング手法につき評価し、プロジェクトリーダー（韓国：Youngkon Lee）に意見を提出する（期限：2013 年 9 月）。
- ◇ プロジェクトリーダー（韓国：Youngkon Lee）は、提出された意見を SOA サービス・モデリング手法に反映する（期限：2013 年 11 月）。

以上の TMC 審議の後、次の提案を AFACT 運営委員会（StC）に行い、了承された。

- ① TMC で策定する次のガイドラインを次回 AFACT 総会（2013 年 10 月末）後、AFACT Web 上で公開レビューを行う。公開レビュー期間は、次年 AFACT 運営委員会（2014 年 4 月または 5 月）までとする。
 - ◇ CIDL 情報基盤フレームワーク・ガイドライン
 - ◇ SOA サービス・モデリング・ガイドライン

V. AFACT 運営委員会 (StC) :

AFACT の活動状況および活動計画につき、次の審議が行われた。

(1) 国連 ESCAP との連携について

国連 ESCAP の Sang Won Lim 氏との Skype による電話会議が行われ、AFACT との連携につき Sang Won Lim 氏より国連 ESCAP の対応が次のように報告された。

- ・ AFACTは国連 ESCAP のメンバーとしては認められないが、関連するフォーラム等への招待は可能である。
- ・ 国連 ESCAP は、AFACT の会議への参加につき予算の許す範囲で最善を尽くす。

(2) 国連 CEFACT 状況報告

日本代表の石垣氏 (JASTPRO) より、本年 4 月にジュネーブで開催された第 21 回国連 CEFACT フォーラムの報告が次のように行われた。

- ・ 参加者は 142 名、アジアからはインド、日本、韓国からのみの参加であり、前回参加の中国、マレーシア、タイは不参加であった。
- ・ 貿易・運輸 PDA においては、勧告 14 (署名以外の方法による貿易書類の認証) の改訂、勧告 36 (シングルウィンドウの相互運用性) の策定、勧告 1 (国連レイアウト・キー) の評価についての審議が行われた。
- ・ サプライチェーン PDA では、コア構成要素技術仕様 (CCTS) V3.0 に基づくコア構成要素辞書 (CCL V3.0) の実証報告と評価が行われた。
- ・ 分野別 PDA (農業分野) では、動物トレーサビリティ、農産物電子認証 (eCert) の電子署名、食物および餌の安全のための緊急通報システム (RASFF)、農業試験所情報 (eLABS)、食物チェーンなどのプロジェクトが審議された。
- ・ 分野別 PDA に、電力・ガス・水道などの情報を活用するためのユーティリティ分野が設置された。
- ・ 分野別 PDA (旅行分野) では、小規模宿泊施設 (SLH) の改訂、新規プロジェクトである旅行目的地情報 (DTI) の審議が行われた。
- ・ 手法技術 PDA は、リーダーの Tim McGrath 氏が出席できず、ノルウェーの Jostein Fromyr 氏がリーダー代理を努め、ビジネス文書ヘッダー、CCTS V3.0 / NDR V3.0 による開発成果 (CCL および XML スキーマ) の公開手続き、および国際貿易における EDI システムの相互運用性につき審議が行われた。
- ・ ビューロー支援 (BPS) のライブラリー保守管理チームでは、国連 EDIFACT D13A への変更申請 (DMR 40 件) が審議され、コア構成要素辞書から XML スキーマの自動生成が可能になったことが報告された。

(3) AFACT 事務局報告

AFACT 事務局 (Hemmat Veyci : イラン) より運営委員会メンバーの更新、ECOSCO (国連経済社会理事会) への NGO (非政府組織) 登録手続き (継続中) 等につき報告が行われた。

また、2013 年の eASIA アワードについて、ホスト国ベトナムより概要スケジュールが示された。

→応募締切：8月15日

→発表：AFACT 総会（10月28日～10月30日）

eASIA アワードの評価委員として次の10名が選任された。

Seok-Koo Ji（韓国）

Eva Yi-Yuan Yueh（台湾）

菅又 久直（日本）

Jafar Mahmoodi（イラン）

Wanawit Ahkuputra（タイ）

Ambreesh Kumar（インド）

ベトナム（2名）、シンガポール（1名）、国連ESCAP（1名）

（4） AFACT 専門家データベース

ホスト国ベトナムのNguyen Manh Quyn氏より、AFACTにおいてメンバー国の技術支援を行える専門家および企業のデータベース構築提案があった。データベースの内容および運営方法は今後検討される。当データベースの構築・運営はベトナムのデータ通信会社（VDC）が引き受ける。

（5） ベトナム ICT 企業との情報交換

ホスト国ベトナムの要請で、次のベトナム3企業からのプレゼンテーションと意見交換が行われた。

Vietnam Datacommunication Company

Smartlink Card Services joint stock Company

Techcombank

（6） 委員会およびワーキンググループ報告

① TMC（技術・手法委員会）報告

小生より、技術手法委員会の報告（「IV.AFACT 技術手法（TMC）委員会会議」参照）を行った。TMCよりStCに要請したCIDL情報基盤フレームワーク・ガイドラインおよびSOAサービス・モデリング・ガイドラインのAFACT公開レビューを実施することにつき承認された。

② TTL-WG（旅行グループ）報告

鈴木氏（旅行電子商取引促進機構）より、小規模宿泊施設（SLH）の実証プロジェクト、および新規プロジェクトである旅行目的地情報（DTI）プロジェクトの進捗状況が報告された。

③ BDC/CSC（広報・支援委員会）およびSHARPワーキンググループ合同会議報告

CSC 議長の Ms. Eva (台湾) より総括報告があり、BDC の議長で SHARP ワーキンググループのリーダーの Ms. Jasmine Jang (韓国) より#SHARP メールの利便性と課題につき説明が行われた。

今後解決すべき#SHARP メール推進の主な課題は次の 2 点である。

- ・ 認証局の各国間相互の合意。
- ・ 国際レベルのアイデンティティ認証の仕組み。

以上の課題解決に向け、イランと韓国が共同で次のステップの準備をすることになった。

(7) 今後の AFACT 会議予定

2013 年 10 月	AFACT 総会 (ベトナム：ホーチミンシティ)
2014 年春	AFACT 中間会議 (タイ：プーケットまたはチェンマイ)
2014 年秋	AFACT 総会 (タイ：バンコク)
2015 年春	AFACT 中間会議 (イラン：キッシュ) 未確定
2015 年秋	AFACT 総会 (イラン：テヘラン) 未確定

以上

